

これまでも、これからも、地域とともに JA北魚沼は『総合事業』を展開します

- 農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。
- このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。
- そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、地域にとってなくてはならない組織であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JAは、農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農畜産物の販売、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）などの様々な事業を、農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

一方、農業者以外の方で、地域農業の発展や地域づくり、ニッポンの食を応援していただける方には、“地域農業の応援団”として准組合員に加入いただいております。

営農指導員の配置や多額の農業施設投資は、信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ可能であり、総合事業だからこそJAの経営基盤が安定することになります。

いわば、農業者と地域農業の応援団が、JAの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

主な取り組みを次の3点により紹介します。

1. 販売を起点とした「北魚沼米ブランド」の確立に向けた取り組み

コシヒカリを中心に、こしいぶき・新之助を北魚沼米の3本柱と位置付けるとともに、需要が高まっている業務用米等を加え、選べる「北魚沼米ブランド」を確立します。

2. 園芸生産の拡大

園芸推進作物の生産拡大に取り組むとともに、圃場整備事業を契機とした「稲作プラス園芸」を推進します。

3. トータル生産コストの低減

県下統一肥料、大型規格農薬、予約品直送対策支援など低コスト資材の提案を行うとともに、農機具取得応援事業を実施します。（農機具取得助成総額：2,000千円／年）

なお、当JAの営農指導事業の主な取り組みは次のとおりとなっています。

- ① 選べる「北魚沼米ブランド」の確立
- ② 需要に応じた計画生産による有利販売
- ③ 花き経営・生産・販売強化による百年継続産地基盤づくり
- ④ 生産基盤安定のための雇用労働者の確保と次世代の担い手育成 等